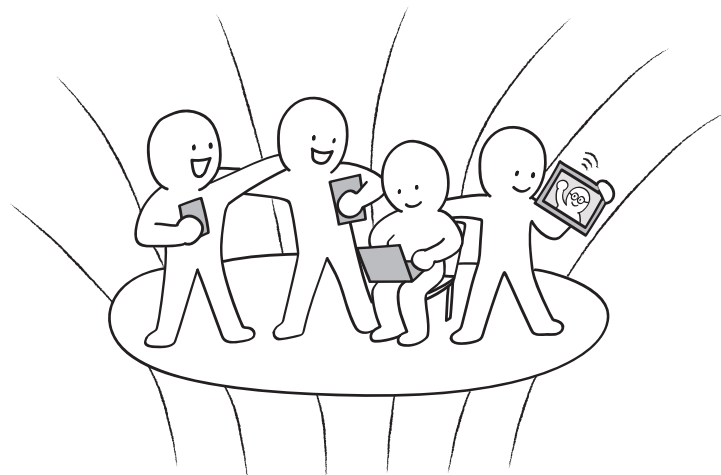


---

# デジタルを 活用する 未来に向けての ことばカード

---

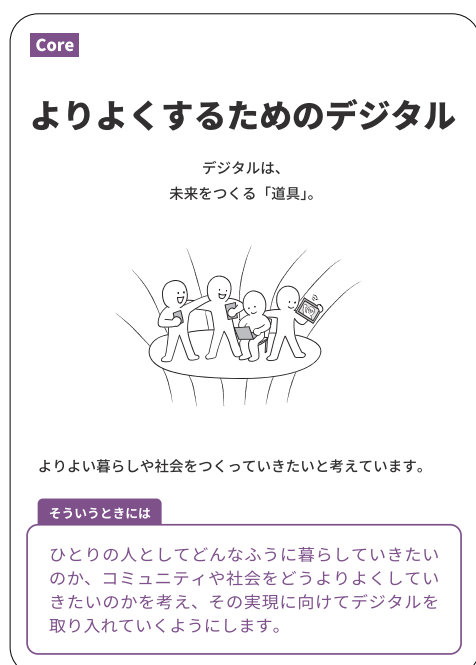
Leveraging Digital Technology to Build a Better Future



デジタル庁

# デジタルを活用する未来に向けての ことばカードとは

『デジタルを活用する未来に向けて』で紹介した 28 の「ことば」のカード版です。複数人で話しあう時や、ワークショップのツールとして、掲示用、また手軽に見たい時など、さまざまな用途に応じてお使いいただけます。



カード 見本

- デジタル庁のサイトからダウンロードし、使用することができます。
- 『デジタルを活用する未来に向けて』に入っている 28 のことばの内容を抜粋したものです。
- 情報量が少ないため、内容をすばやく把握し、より自由度をもってそれぞれが考えられるようになっています。
- 詳細の文章を読んでいなくても 28 のことばに触れ、考え始めることができます。
- 同じカードデータで【印刷用カード版】と【デジタルカード版】があります。
- 【印刷用カード版】は、印刷して切り取って使用します。対面でのワークショップや手にとって見たい場合などに適しています。【デジタルカード版】はスライドへの転載やオンラインワークショップなどに使用できる JPEG 形式の画像ファイル（.jpg）になっています。

本ファイルは【印刷用カード版】です。【デジタルカード版】は、別途デジタル庁のサイトからダウンロードしてください。

# カードの使い方

## 【印刷用カード版】（本 PDF ファイル）

このファイルをプリントアウトし、5 から 12 ページのカードのページを、点線で切ってカードを作成します。

カードには、表紙、ことばの一覧、28 のことばの合計 30 枚と、実践レベルカード（4 枚）があります。

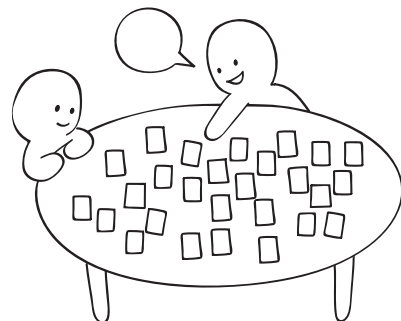
## 基本の使い方（紙のカードをワークショップなどで複数人で使う）

### ① ディスカッション・学びのために

学校での授業や社内研修、またデジタルの使い方を学ぶ場などでの使い方です。1 枚のカードをテーマとして、話しあい、理解を深めます。

### 進め方

- ・ 4 人程度でグループになり、グループごとにカードを 1 セット準備します。
- ・ 話すテーマとなるカードを決めます。参加者が自分たちで話してみたいカードを決めることも、場を主催する側で決めておくこともできます。
  - ・ 参加者が自分たちで決める際には、カードを全部机に並べ、「これについて話してみたい」ものを一人 1 枚選びます。挙がったなかから、グループのテーマとするものを相談して 1 枚に絞ります。
- ・ 選んだ 1 枚のカードの内容をみんなで読んで、思ったことを一人ひとり話していきます。自由に話すのがよいですが、以下のような観点をあげると話が盛り上がりやすくなります。
  - ・ どんなことを経験したことがあるか、聞いたことがあるか
  - ・ なぜそれが大切なのだと思うか
  - ・ こういうときに困るのだけどどうしたらよいだろうか
  - ・ 具体的には、どんなふうにするとうまくできそうか

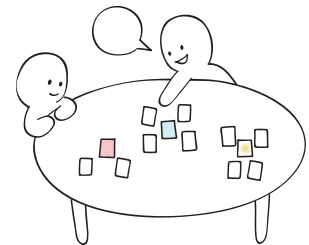


## ② 自己分析・実践状況を把握し、よりよい活動を実行していくために

主に組織（企業や団体など）や社会的な活動などについて、自分たちの現状を把握し、強化すべきことや見直していくことなどを考えていきます。

### 進め方

- ・普段一緒に業務（活動）をしている人たち（4人程度）でグループになり、グループごとにカードを1セット準備します。
- ・机の上に実践レベルカード「実践している」「少し実践している」「実践していない」の3枚を、少し間をあけて並べます。
- ・A～Cの27枚のカードを1枚ずつ読みながら、自分たちが実践しているかを話しあい、あてはまる「実践レベルカード」の周りに置いていきます。（Coreは除きます。時間によってはAだけ、Bだけ、などでもよいでしょう）
- ・分類が終わったら、「取り入れたい」カードを出してきます。「少し実践している」「実践していない」に分類したカードのなかから、自分たちが今後やっていきたいと思うカードを「取り入れたい」の近くに移動させます。
- ・「取り入れたい」の近くに移動させたものから、1～2枚を選んで、自分たちならばどのように実践していけるかを具体的に考えていきます。
- ・具体的な案が出たら、翌日からみんな意識しながら取り組みます。ときどき、自分たちができているかを確認しながらレベルをあげていけるとよいでしょう。



## ③ 多分野連携の会議などでのアイスブレイクとして

デジタルに関して考えていく会議などで、話し合っていく前の準備運動のように使います。初めて会う方同士やデジタルに特別な関心がない方でも気軽に話し始めることができ、場を温めることができます。

### 進め方

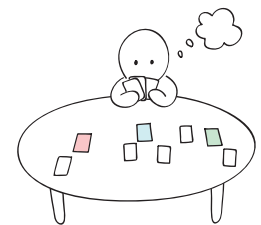
- ・4人～6人程度でグループになり、グループごとにカードを1セット準備します。
- ・机の上に28枚のカードを並べて、一人1枚話したいカードを選びます。選ぶお題としては、以下のようなものから場の目的に合ったものを選びます。
  - ・「自分が大切にしているものを1枚選んでください」
  - ・「好きなもの、気になるもの、今日の気分合っているものを1枚選んでください」 など
- ・選ぶ際、カードをきちんと読む必要はありません。1分程度のなかで、名前やイラストなどからフィーリングで選んでもらいます。全員が選び終わったら、選んだカードをグループ内に紹介しながら、それを選んだ理由を話してもらいます。話す時間の目安は、一人1～2分です。

例) 私が選んだのは《発信の影響力》です。これを選んだ理由は…。
- ・一人が話し終わったら、みんな拍手をして、次の人が話します。

## 基本の使い方（紙のカードを個人で使う）

個人ではさまざまな使用方法があります。

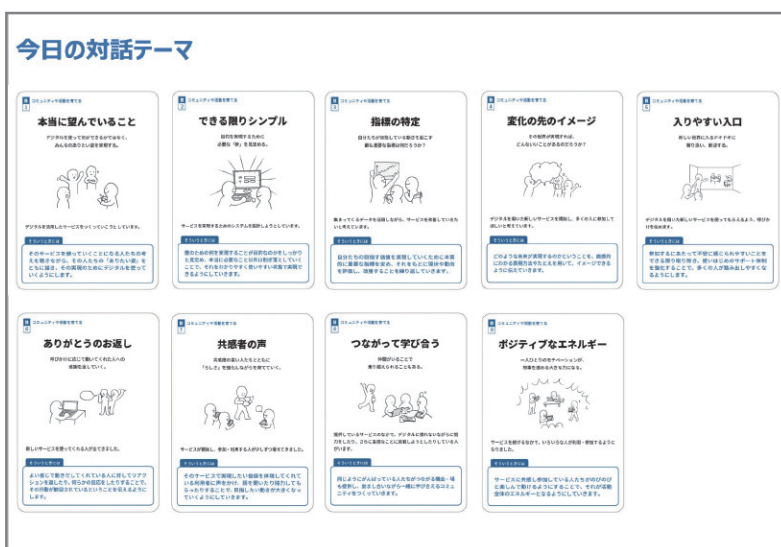
- ・3ページ「②自己分析・実践状況を把握し、よりよい活動を実行していくために」を個人で試してみます。
- ・気に入ったカードを目につくところに置いておいたり、持ち歩いたりすることで日常で意識できるようになります。
- ・取り入れたり考えてみたりしたいけれども、自分では案が浮かばないときには、できていそうな人にカードを見せて、その人の考えやしていることを聞いてみるとヒントが得られます。
- ・家族や身近な人と話したいときなどに、「こういうカードがあってね」とカードを見せて話しをすることでスムーズにデジタルを取り入れていくための話しを始めることもできます。



## 【デジタルカード版】（別ファイル）

この資料のカード1枚1枚がjpgのデータになっているのがデジタルカードです。デジタル庁のサイトからダウンロードすることができます。

## 基本の使い方（デジタルカードを資料内で使うなど）



- ・デジタルの文書やスライドなどに挿入して使用することができます。
- ・オンラインでのワークショップやプレゼンテーション資料などに使用することができます。

### 【使用上の留意点】

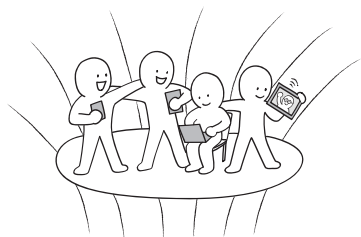
- ・多くの人にデジタルについて考える機会をもていただくため、ご自由にお使いいただけます。ただし、意味の変更を生じさせる編集などはご遠慮ください。
- ・転載などにあたっては、リンクや引用元の表記をお願いいたします。

プレゼンテーションやワークショップでの使用例

# デジタルを 活用する 未来に向けての ことばカード

Leveraging Digital Technology to Build a Better Future

デジタル庁



## デジタルを活用する未来に向けて

### Core

よりよくするためのデジタル

A:一人ひとりの暮らしをよくする

▷身近な人の一歩目に寄りそう

A1.「それ、いいね」の実感

A2.困りごとの解決

A3.頻度が高いものから

▷世界を広げるお手伝いをする

A4.使い始めの伴走

A5.その人に合った場所

A6.安心へのサポート

▷自らデジタルを楽しめる人になる

A7.同世代のおしゃべり

A8.面白がって変えていく

A9.デジタルとのバランス

B:コミュニティや活動を育てる

▷コミュニティの未来に

デジタルを活かす設計をする

B1.本当に望んでいること

B2.できる限りシンプル

B3.指標の特定

▷新しい世界観に招き入れる

B4.変化の先のイメージ

B5.入りやすい入口

B6.ありがとうのお返し

▷つながりながら、ともに育てていく

B7.共感者の声

B8.つながって学び合う

B9.ポジティブなエネルギー

C:これからの社会をつくっていく

▷デジタル社会に必要な力を考える

C1.発信の影響

C2.多様な考えの受け止め

C3.その問題の本質

▷インフラとしてデジタル社会を支える

C4.いろいろな届け方

C5.良質なコンテンツ

C6.情報活用の工夫

▷国と地球の未来を考える

C7.つながりの突破力

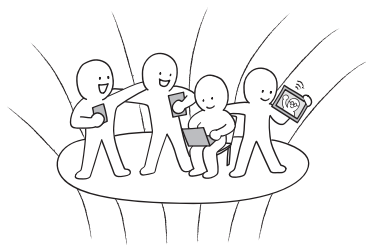
C8.日本ならではの特徴

C9.若い世代の感性

### Core

## よりよくするためのデジタル

デジタルは、  
未来をつくる「道具」。



よりよい暮らしや社会をつくっていききたいと考えています。

### そういうときには

ひとりの人としてどんなふうに暮らしていきたいのか、コミュニティや社会をどうよりよくしていきたいのかを考え、その実現に向けてデジタルを取り入れていくようにします。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

### A 1

一人ひとりの暮らしをよくする

## 「それ、いいね」の実感

使ってみたい！と  
直感的に思えるように。



身近な人の日々がより楽しみのあるものになっていくよう、デジタルを使うことを提案したいと思っています。

### そういうときには

実際に動かして見せたり、自分で動かしてみてもらったりして、その楽しさや便利さを体感してもらうことで、「使いたい」という気持ちが生まれるようになります。

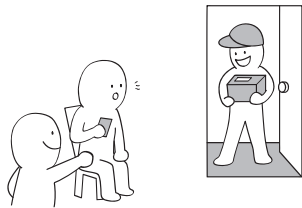
デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

A 一人ひとりの暮らしをよくする

2

## 困りごとの解決

デジタルは、  
意外といろいろ助けてくれる。



身近な人の日々が、より便利で過ごしやすいものになるように手助けをしたいと思っています。

そういうときには

その人が今まさに困っていること・困っていそうなことに着目して、その困りごとをデジタルでどう解決できるのかを考え提案します。

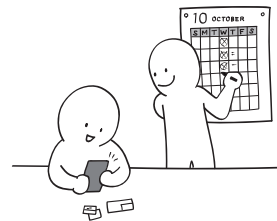
デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

A 一人ひとりの暮らしをよくする

3

## 頻度が高いものから

何度も使うと、  
自然と覚えるものだ。



暮らしをよりよくするために、こんなふうデジタルを使うとよいのではないかと候補がいくつか見えてきました。

そういうときには

使用頻度の高いものからデジタル化し、定期的に使って忘れにくくすることで、デジタルを使うことが定着するようにします。

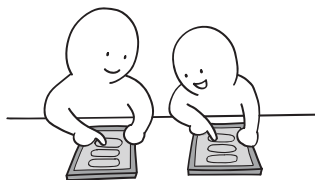
デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

A 一人ひとりの暮らしをよくする

4

## 使い始めの伴走

できないことを助けながら、  
徐々にできることを増やしていく。



デジタルを使い始める人をサポートしています。

そういうときには

難しい部分は手伝いながら、徐々に本人が操作する部分を増やしていくことで、「自分にもできる」「これからもできそう」という実感を持てるようにします。

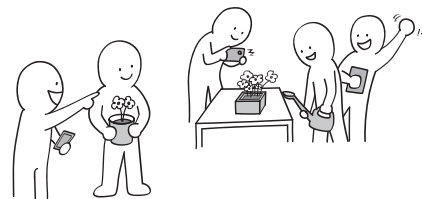
デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

A 一人ひとりの暮らしをよくする

5

## その人に合った場所

人とつながることは、  
喜びへの第一歩。



デジタルを介して人とのつながりを持つこともおすすめしたいと思っています。

そういうときには

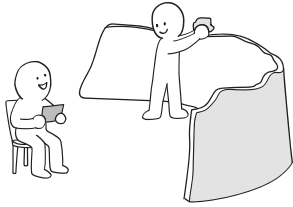
本人の興味やコミュニケーションスタイルに合いそうな場を探し、そこでの基本的な考え方や作法を教えることで、新たなつながりをつくっていくことの手助けをします。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

A 一人ひとりの暮らしをよくする  
6

## 安心へのサポート

危険を回避しながら、  
世界を広げられるように。



本人が、インターネット上で交流や活動をするようになりました。

そういうときには

起こりそうな危険を想定し、設定・環境を整えたり、本人にも注意を促したりすることで、実際に危ないことが生じないようにしていきます。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

A 一人ひとりの暮らしをよくする  
7

## 同世代のおしゃべり

「なんでだろう」という感覚を共有しながら、  
自分たちで試し、見つけていく。



徐々に自分たちでデジタルの活用を広げていってほしいと思っています。

そういうときには

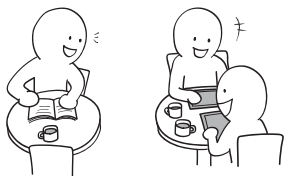
同世代でデジタル活用について話す機会や場を設けることで、似たような価値観のなかで共感しながら、ワイワイと学び合えるようにします。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

A 一人ひとりの暮らしをよくする  
8

## 面白がって変えていく

楽しみながら学び続けることで、  
主体的に進んでいく。



デジタルによって、日々の暮らしや社会の仕組みがどんどん変化していく時代に生きています。

そういうときには

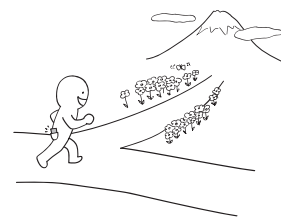
世の中の新しい事例や面白そうだと思うことに積極的に触れ、そのよさを自分の活動に取り入れるようにしていきます。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

A 一人ひとりの暮らしをよくする  
9

## デジタルとのバランス

デジタルをあえて使わないことで  
出会う感動もある。



デジタルを暮らしのいろいろな場面で活用できるようになってきました。

そういうときには

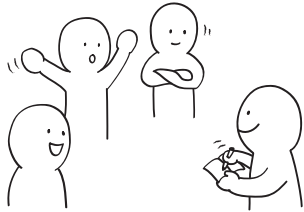
人間らしさにもこだわり、デジタルを使う部分と使わない部分をうまく見極めることで、自分の暮らしをよりよくするバランスを自分自身でつくっていきます。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁



## 本当に望んでいること

デジタルを使って何ができるかではなく、  
みんなのありたい姿を実現する。



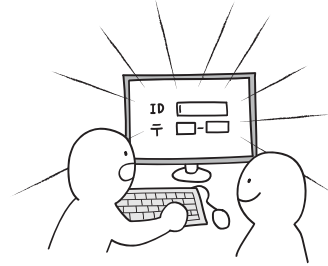
デジタルを活用したサービスをつくっていかようとしています。

### そういうときには

そのサービスを使っていくことになる人たちの考えを聴きながら、その人たちの「ありたい姿」とともに描き、その実現のためにデジタルを使っていくようにします。

## できる限りシンプル

目的を実現するために  
必要な「幹」を見定める。



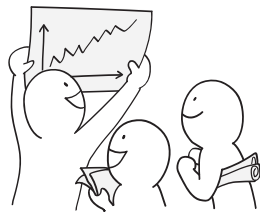
サービスを実現するためのシステムを設計しようとしています。

### そういうときには

誰のための何を実現することが目的なのかをしっかりと見定め、本当に必要なこと以外は削ぎ落としていくことで、それをわかりやすく使いやすい状態で実現できるようにしていきます。

## 指標の特定

自分たちが目指している動きを起こす  
最も重要な指標は何だろうか？



集まってくるデータを活用しながら、サービスを改善していきたいと考えています。

### そういうときには

自分たちの目指す価値を実現していくために本質的に重要な指標を定め、それをもとに現状や動向を評価し、改善することを繰り返していきます。

## 変化の先のイメージ

その世界が実現すれば、  
どんないいことがあるのだろうか？



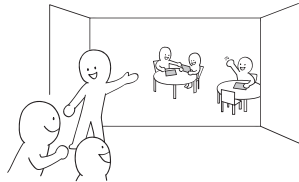
デジタルを用いた新しいサービスを開始し、多くの人に参加してほしいと考えています。

### そういうときには

どのような未来が実現するのかということを、直感的にわかる表現方法やたとえを用いて、イメージできるように伝えていきます。

## 入りやすい入口

新しい世界に入るドキドキに  
寄り添い、歓迎する。



デジタルを用いた新しいサービスを使ってもらえるよう、呼びかけを始めます。

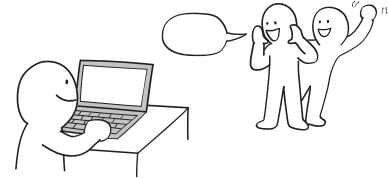
### そういうときには

参加するにあたって不安に感じられやすいことをできる限り取り除き、使いはじめのサポート体制を強化することで、多くの人々が踏み出しやすくなるようにします。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

## ありがとうございますのお返し

呼びかけに応じて動いてくれた人への  
感謝を返していく。



新しいサービスを使ってくれる人が出てきました。

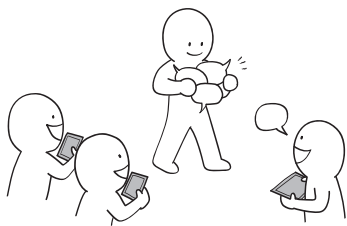
### そういうときには

よい感じで動きだしてくれている人に対してリアクションを返したり、何らかの反応をしたりすることで、その行動が歓迎されているということを伝えるようにします。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

## 共感者の声

共感度の高い人たちとともに  
「らしさ」を強化しながら育てていく。



サービスが開始し、参加・利用する人が少しずつ増えてきました。

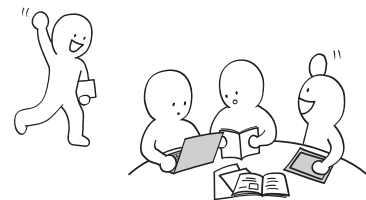
### そういうときには

そのサービスで実現したい価値を体現してくれている利用者に声をかけ、話を聞いたり協力してもらったりすることで、目指したい動きが大きくなっていくようにしていきます。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

## つながって学び合う

仲間がいることで  
乗り越えられることもある。



提供しているサービスのなかで、デジタルに慣れないながらも努力している人や、さらに高度なことに挑戦しようとしている人がいます。

### そういうときには

同じようがんばっている人たちがつながる機会・場も提供し、励まし合いながら一緒に学び合えるコミュニティをつくっていきます。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

## ポジティブなエネルギー

一人ひとりのモチベーションが、  
物事を進める大きな力になる。



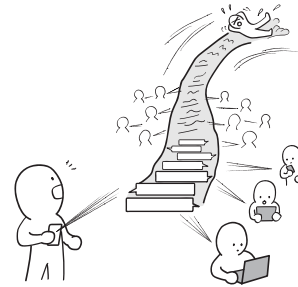
サービスを続けるなかで、いろいろな人が利用・参加するよう  
になりました。

### そういうときには

サービスに共感し参加している人たちがのびのび  
と楽しんで動けるようにし、それが活動全体のエ  
ネルギーにつながっていくようにしていきます。

## 発信の影響力

一人ひとりの声は小さくても、  
それが重なると大きなうねりになっていく。



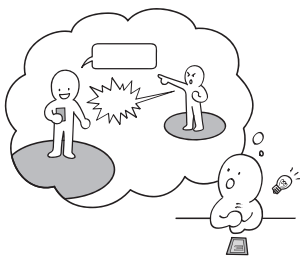
インターネット上で、発信やリアクションをすることがあります。

### そういうときには

インターネット上での言動は、たとえそれが小さ  
なものであっても想像し得ない大きな影響力を持  
ち得ることを踏まえ、自分がしようとしている言  
動は適切なのかを今一度考えてから動くようにし  
ます。

## 多様な考えの受け止め

価値観や考えが違えば、  
同じものでも違うように見えている。



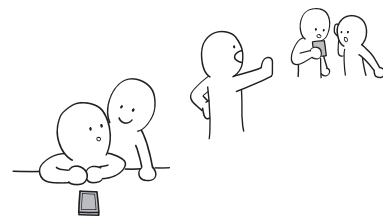
デジタルを介したやりとりや、インターネット上で発信したこと  
に対して、トラブルが発生しました。

### そういうときには

自分の言動の何に対して、相手がどのように気持  
ちを害したのかを想像し、お互いの認識のズレに  
目を向けることで、起こったことを少し客観視し  
て受け止めていきます。

## その問題の本質

起きていることと「デジタルであること」は、  
どう関係するのだろうか？



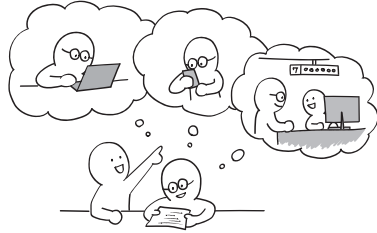
デジタルが関わる新たな事件や社会的な問題が起きています。

### そういうときには

それがデジタルの特性によって起きていることな  
のか、あるいは、それを使う人間や人間関係の問  
題から生じているのか、その問題の本質を見極め、  
それに応じた対応をしていきます。

## いろいろな届け方

デジタルを直接使っていないくても、  
デジタル社会の恩恵が広く届くように。



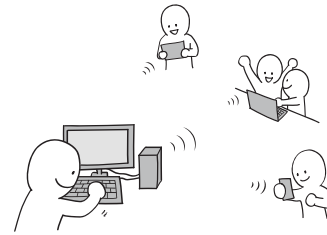
デジタルを活用して社会的なサービスをつくっています。

### そういうときには

「デジタルを使う」ということを広く捉え、直接的にデジタル機器を使わない人へもそのサービスの恩恵を届けられるように、さまざまな形での実現を考えていきます。

## 良質なコンテンツ

デジタル社会では、  
そこを飛び交うコンテンツこそが重要だ。



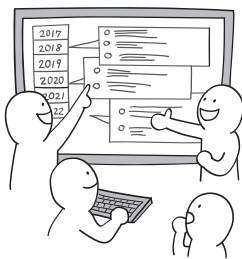
情報共有やコミュニケーションができる場を提供しています。

### そういうときには

個々人が自由に発信できるという良さを保ちつつも、できるだけ良質な情報がインターネット上に溢れるように、企画や仕組みを考えていきます。

## 情報活用の工夫

情報の新しい扱い方を  
自ら試し、広く共有する。



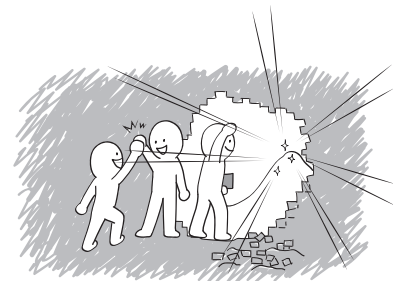
日々の活動のなかで、大量の情報・データが飛び交っています。

### そういうときには

情報の扱い方や、人との連携の仕方を積極的に試し、うまくいったことを共有・発信していくことで、社会全体で情報活用力を高め合っていきます。

## つながりの突破力

前向きな気持ちを寄せ合い、  
これまでにはない大きな一歩を踏み出していく。



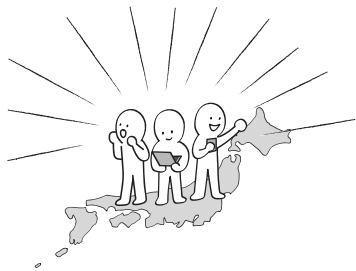
社会や地域にさまざまな課題があります。

### そういうときには

デジタルの力を活用し、それぞれが持っている力や、やってみたいという気持ちをつなぐことで、解決に向けての新たな動きを始めてみます。

## 日本ならではの特性

日本だからこそできることを。



日本の現状とこれからについて考えています。

### そういうときには

現在課題となっている面を改善するとともに、日本ならではの特性や条件、強みに着目し、新たなデジタル活用を生み出すことで、世界に対しての貢献も目指していきます。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

## 若い世代の感性

デジタルとともに育った世代の感性とこれまでにつくってきた力を合わせゆく。



これからの未来をよりよくしていきたいと考えています。

### そういうときには

デジタルに慣れ親しみながら育った若い世代の感性を大切に、新しい発想がのびのびと花ひらくように応援しながら、ともに未来をつくっていきます。

デジタルを活用する未来に向けて デジタル庁

実践している

実践していない

少し実践している

取り入れたい